

新飯能

発行
日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江
090-7265-1601
山田とし子
090-4389-4439
新井たくみ
090-4010-5650
滝沢おさむ
090-7000-4481

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所456)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

介護保険制度の維持・充実を

飯能市社保協などが議会請願

飯能市社会保障をよくする会と日本労働者協同組合連合会は、連名で飯能市議会に対して、「現行の介護保険制度の維持・充実を求める意見書を国に提出するよう」求める請願書を提出しました。

盤をなすものです。

介護保険は、平成9年に法制化され、「介護を必要とする高齢者の治療や介護等にかかる負担(費用、家族介助、福祉施設利用料、福祉用具、住宅改修等)を社会全体で支援する為の保険制度」

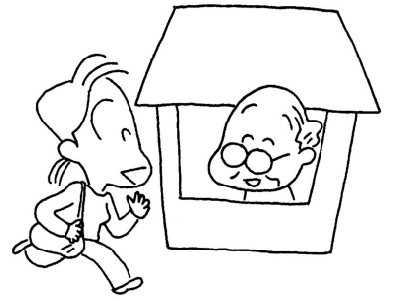
で、市民にも定着が図られ、高齢者本人だけでなく、高齢者を抱える家族や地域の福祉にとって必要不可欠の社会保障制度になっています。

軽度者の福祉用具は自己負担に

このような中、国は、次期介護保険制度改革において、介護認定の軽度者に対する給付を大幅に見直す方針を打ち出し、要支援1〜要介護2までの福祉用具、住宅改修や

「体の一部」を奪うもの

福祉用具サービスは、要支援1から要介護2の方にとって自立支援のために必要なサービスであり、現在、在宅で介護する半数以上の人たちが利用しており、住み慣れた



家で暮らし続けるために不可欠になっています。

また、認知症の方が増える傾向がある中で、要支援1から要介護2の方の訪問介護、機能訓練や

福祉用具取り上げに事業所も怒り

党議員団が事業所を訪問

デイサービス事業と福祉用具の貸し出しを実施している事業所を訪問しました。

レンタルのベッドについては、この事業所だけでなく、他の事業所の参入もあってなかなか厳しいが、地元の事業所なので利用者への親切な対応を行っている。たとえば、自宅でベッドを利用して介護・看護を受けていた方が、入院して夜中に無くなった場合など、家にあるベッドを運び出さないと自宅に迎えられない

レスパイトの役割を果たす通所介護は不可欠です。今、介護保険制度の利用者の約6割が、今回対象となる軽度者(要支援1から要介護2の方)となっていてます。介護保険の目的は高齢者の介護を社会全体で支え自立支援につなげることと同時に、家族の介護負担を軽減し、誰もが安心して生活できる社会を作ることにあります。給付を抑制することは、

介護を受けられなくなる人が増加し「介護難民」を増やしてしまうことになりかねません。また、在宅での介護を困難にし、結果的にコストの高いサービスを利用することにつながるおそれがあります。見直しの議論は、今年厚生労働省社会保障審議会の場で行われます。

飯能市議会が、現行制度の維持・充実を求めていくよう注視していきます。

思う。逆に保険給付費が増えてしまうのではと心配している。」
「要支援1・2と要介護1・2の人が利用者の7割から8割とほとんど。平成17年改正で要介護1・2の人が『要支援』になって、事業所としては介護報酬が約30%減ったが努力して乗り切ってきた。要支援の利用者を保険から外したら、月4回〜5回利用で1万5千円のお金は払えない。社会貢献の仕事なので続けたいが不安」と語っています。

波紋

近所の人々がゴーヤの佃煮をつくらうと聞いて、わざわざゴーヤを買ってきました。

きつかけは「新飯能(21日付)に載った「簡単ゴーヤの佃煮」のレシピでした。手にはレシピの切り抜きも持っていました。おおいしく出来るといいなと思いつつも、なんでも自分流がいいと思つていた悪癖で、「茹でたあと固くしぼらないとぐちゃぐちゃになつてしまうのではないか」「砂糖を入れればみりんはいらないのではないか」「ごまだけじゃなくかっお節も入れた方がいい」などと余計なことを言つてしまいました。▼晩酌に自分をつくったゴーヤの佃煮をつまんでみると、熱いものがこみあげてきました。この酒をもつて来てくれた人はもういないのです。ゴーヤの佃煮を肴に酒を酌み交わすこともできないのです。お互いにいいたいことを言いあつて、蝉のように鳴き続けた人生だったと思うと切なさがつります。あまりにも個人的なことなのですが…。



台風情報

飯能市内では床上浸水など

22日埼玉各地に被害を及ぼした台風9号は、飯能市では午後0時半までの1時間に約120ミリの猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報が発表されました。

市内各所で、短時間の豪雨で排水が飲み込めなくなり、道路冠水や水路の溢れ、床下・床上浸水などを引き起こしました。川遊びやバーベキューなどの行楽客でにぎわう入間川の飯能河原も濁流にのみ込まれました。

市内8ヶ所に設置されている雨量計でみると特に、山間部より市内の降

雨が多く、正午〜2時の雨量は、名栗58ミリに対して征矢町122ミリに達しました。

山間部の大きな土砂崩れなどは確認されていはいようです。

河川の状況を見ていた岩沢の市民は、午前10時半頃から雨足が激しくなり、一気に増水し、河原や中州は濁流にのまれ、上流から流木が押し寄せてきた。最近、こんな光景はなかった」と驚いていました。

被害が大きかった入間、

所沢には23日に、塩川、梅村衆院議員、柳下県議が調査に入り、25日に狭山、飯能市議団も一緒に対策会議がもたれました。

費助成、給付型奨学金、子ども食堂等支援策

(2) 高齢者の仕事と住宅確保

3 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン内)の住宅建築に対して、建築主の負担軽減策を

4 交通安全対策

① 虎秀谷津出口に信号機設置を

② 原市場・大正橋から県道との交差点信号機を感知式信号機に改善を

③ 中居地域の学童交通安全対策を

1 就学援助制度の充実を

① 援助費目・援助内容の拡充を

② 高額立て替えや貸し付けなど改善を

③ 制度案内の多言語化について

2 井戸の調査と活用について

3 環境基本計画の中から生物多様性の保全・里地里山の整備について

4 市民アンケートから① 街路灯の要望について② 歩道整備について

1 泉水問題

(1) 泉水をこれ以上の増量をしないこと

(2) 本郷浄水場の機能を維持し水利権を守ること

(3) 市長公約違反について

2 介護保険問題

(1) 介護事業所への訪問調査を実施して

(2) さらに介護保険外しに市はどう向き合うのか

3 子宮頸がんワクチン副反応問題について

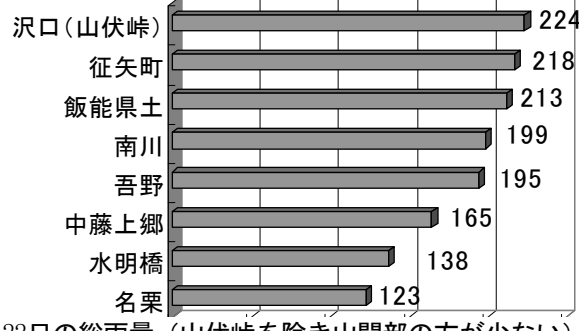
4 地域問題

(1) 清川橋の架け替えについて

(2) 征矢町・いちご公園にトイレの設置を

として、●私有財産は認めるのか? ●天皇制についての考えは? ●自衛隊をどうみるのか? ●理想は1党独裁か? ●外で酒をのむのはダメなのか? など、9項目の質問が出されて、党綱領に沿って分かりやすく回答してきたという話をユーモアを交えて話しました。そして、党綱領「の学習を基本にして日々の活動に展望をもって取り組もう」と語りました。

次に、奈良女子大学大学院教授・中山徹氏による「人口減少と地域の再編」というテーマ



22日の総雨量 (山伏峠を除き山間部の方が少ない)

日本共産党の一般質問 質問内容と質問時間

9月1日(木)

15・30

新井たくみ

- 1 交通政策について、
- (1) 地域公共交通協議会の再開と進め方について
- (2) 地域別の懇談会をどのように進めていくか
- (3) 国際興業バスの路線維持に関連して、高校生等

- 2 福祉問題
- (1) 子どもの貧困・高齢者の貧困対策を(学校給食

と高齢者のバス利用を促進するための利用者意向調査の実施を

(4) 介護保険の新総合事業と移動交通問題について

(5) 買い物弱者の支援策として、移動販売支援事業の創設を



1 区画整理問題

(1) 4地区で行われている区画整理、除外地区の事業について

(2) 事業の進捗と今後の進め方について

(3) 市民アンケートや地域の要望から

2 区画整理、除外地区の下水道整備について

3 宮沢湖に隣接する精明地区の魅力ある地域づくり

(1) 精明地区の特徴と今後をどの様に考えているか

(2) 交通問題について

9月2日(金)

13・10

滝沢おさむ

党綱領」と大口減少問題」を学習

埼玉地方議員研修会開かれる

8月のお盆明け、日本共産党埼玉県委員会主催で県内の地方議員、地区委員会勤務員などを対象に研修会が開催されました。テーマは、7月の参議院選挙では、日本共産党の綱領に注目が寄せられたことから、中央委員会の学習・教育局の山谷富士雄氏を講師に迎えて学習しました。選挙中、日刊ゲンダイの編集部から、共産党への素朴な疑問「

1 泉水問題

(1) 泉水をこれ以上の増量をしないこと

(2) 本郷浄水場の機能を維持し水利権を守ること

(3) 市長公約違反について

2 介護保険問題

(1) 介護事業所への訪問調査を実施して

(2) さらに介護保険外しに市はどう向き合うのか

3 子宮頸がんワクチン副反応問題について

4 地域問題

(1) 清川橋の架け替えについて

(2) 征矢町・いちご公園にトイレの設置を

として、●私有財産は認めるのか? ●天皇制についての考えは? ●自衛隊をどうみるのか? ●理想は1党独裁か? ●外で酒をのむのはダメなのか? など、9項目の質問が出されて、党綱領に沿って分かりやすく回答してきたという話をユーモアを交えて話しました。そして、党綱領「の学習を基本にして日々の活動に展望をもって取り組もう」と語りました。

次に、奈良女子大学大学院教授・中山徹氏による「人口減少と地域の再編」というテーマ